



自動車の安全運転を見守る (IRSME13020)

平成 25 年 10 月 21 日 原田長州

企業で利用する自動車の運転は、適切に管理・運営されないと企業のリスクとなりえる。

主に物流・運輸業では、

- ・乗車前のアルコールチェックによる飲酒/酒気帯び運転の防止
- ・タコグラフによる速度や運転時間の把握
- ・カメラ付ドライブレコーダーにより映像を録画し事故や急ブレーキの状況を自動記録
- ・GPS による車両位置の把握により配車サービスの業務効率化

などを目的としたツールが法定、法定外装置を含めて利用されている。

物流・運輸業など業種以外においては、一定のチェックは行われているものの、車両を安全に運用するための取り組みには企業によって差が見られる。一つの選択肢としてテレマティクスサービスの利用を検討したい。

■ テレマティクス(telematics)サービスを利用する。

テレマティクスとは、自動車等に GPS や通信装置を取り付け、位置情報・通信機器により情報を車両から発信・車両が受信することで情報のやりとりをおこない、ドライバー・運行管理者などが情報を活用することを指す。(図 1 参照)



【図 1 テレマティクスシステム概念図】

個人での利用者も多く、万一車両が盗難にあった場合に車両追跡などの用途で利用が増加している。運転データや位置情報を活用することで損害保険の料金の割引を受けることが可能な商品も開発されている。

法人では、運行管理・配車・カーナビゲーションシステムなどの既に導入されている機能と

連動させ、渋滞を回避するルート最適化などの目的に利用されている。

■ 当社の事例

当社（株式会社エフアンドエム）では、社有車にテレマティクスサービスを付加している。導入時から比べ燃費が1リットルあたり3km以上向上した。（季節、運転者の運転技術、走行距離、走行経路などは同一条件ではないが、おおむね毎月この程度の改善が認められる。）燃費向上においては、アイドリング時間が把握できること・スピード超過のアラート機能によって管理者にリアルタイムに通知される機能を通じ、スピードや急発進・急停止に対する意識が高まったため、よい影響をあたえていると考えられる。

導入には装置を車両に取り付ける費用、導入後には月々の定額費用が必要だが、燃費向上により、ガソリン代の減少分の金額がテレマティクスサービスのランニング費用を上回ることができている。運転しているときは、常に「見られている」という意識を持つことが重要であるようだ。

■ まとめ

安全運転を徹底するには、従業員への教育や状況の把握が欠かせない。車両使用者の自主的な報告のみに頼ると、運転の内容を正確には把握できない。実際の状況がわからなければ有効な対策を講ずることは難しい。

テレマティクスを導入することで、法定速度超過・急ブレーキ・長時間のアイドリング・業務と関係ない車両の利用・適切な休憩を取らない長時間運転を把握することが可能になる。これが燃費を向上させ無用な事故を防ぐことにつながる。これらの情報は、リアルタイムに取得され、不適切な運転や問題のある使用があった際は自動的に管理者へ通知される。管理者から車両利用者への適切なフィードバックがなされることにより、無駄や危険な運転を減らし運行の改善につなげることができるのだ。

データの活用は本業の改善のみにとどまらない。運輸関係の企業はもちろん、営業車の利用が多い企業においては、問題が顕在化する前に導入を検討することを強く勧めたい。（了）